

高齢者の生活行動における「とりつき」に関する研究

本論文は、高齢者の地域における生活行動の分析を通じて、「とりつき」という行為を中心に高齢者が地域にどのように支えられているかを抽出し、地域の役割を検証することを目的としている。既成市街地である台東区谷中と計画的ニュータウンである多摩市諏訪・永山地域という異なる形成過程を持つ両地域を対象とし、これらの比較検討も併せて行っている。近年、都市において高齢者世帯の率が高まる中で、地域の高齢者世帯を支えるという役割が求められていることが背景となっている。

第一章では高齢化社会の現状などを捉え、社会的なサポートが必要な高齢者世帯に関して、「とりつき」というキーワードをもって地域社会から高齢者が支えられて生活する、地域のさまざまな媒体要素を通じて高齢者が地域から見守られているという意識が得られるようにする必要性について述べている。

第二章では、両地域のアンケート調査により高齢者の生活の行動、属性、コミュニティー活動、地域に対する意識などに関する全体像を分析した。

谷中は居住暦が長い高齢者が多く、友人との交流関係を維持しやすく自然に深い関係に発展する。恵まれた周辺環境と下町という特徴ある都市空間を利用して豊富な生活資源を利用しながら生活を送っている。また、地域が住民に多様な生活を許容している。

諏訪・永山では高齢者はそれぞれ地域と距離感を持ちながらも地域の一人として地域社会にかかわろうとしている。交流関係については、男性は社会関係を維持するために居住地から遠い地域外まで以前の社会関係を有しているのに対し、女性は日常生活と密接に結び付いた身近な地域において地域的な関係を蓄積している。

第三章では以下のケース別の生活類型で考察をした。

- 1) 地域で「とりつき」を完結しているケース: 環境がいい谷中の方が買物や外出面で地域と深い関わりをもっている。家族との関係も自宅の近くに住んでいるケースが多く精神的、物理的にも周りから支援が直接もらえる。外出行動の豊かさと選択肢は少ないが、比較的深く長い交流関係を持っている。
- 2) 自宅や地域を中心に「とりつき」を地域外まで拡大しているケース: 地域は十分に活用し、地域の場所的な意味づけや近隣関係に長い期間をかけてお互いの信頼関係を築いている。それをもとに地域外まで「とりつき」が拡大している。人と付き合うのが上手で社会的ネットワークも広い。
- 3) 地域外に「とりつき」の拠点を持っているケース: 地域にはあまり意味づけがなく期待していない。地域内で満たされないことを外へ求め、地域外では比較的活発にサークルや仕事の関係などを介して「とりつき」が行われている。ただし、その活動は利用している場所は幅広いが、その場所は必ずしも連鎖してはいない場合が多い。
- 4) 生活の変化による「とりつき」の移動ケース: 定年などの生活の変化によって「とりつき」の中心が仕事場であった地域外から地域内に変遷したケース。これらのケースはサラリーマンが多いニュータウンでよくみられるケースで退職後、時間的な余裕ができて地域と積極的に「とりつき」を行っている。

5)「とりつき」を殆ど持っていないでケース:「とりつき」を殆ど持っていない人は地域で相手にしている人は家族や長く付き合った人だけでいつも同一人であり、人間関係に多様性はみられない。

第四章では両地域別の「とりつき」のかたちを高齢者のコメントを通じて分析してどのような「とりつき」が行われているかを各地域の商店街や買物、趣味、サークル活動、近隣などに分けてその意味を分析・考察を行った。

諏訪・永山の高齢者は常に地域に対して、積極的に動かなければ、地域の中で自分の生活空間や組織との関わりが弱くなる。特に、新しく引っ越してきた人やまわりとの関係を作ることの苦手な人にとって、地域はすぐに受け入れてくれないので、短時間で地域と親密になりにくいこともある。

これに対して谷中には、高齢者を支えている地域の人的、物的環境の充実さ(あるいは多様な選択肢)とそれを構成する諸要素と関連させながら生活ができる地域の密接な組織力がある。谷中という地域環境を利用して能動的に働きかけながら生活している。

それぞれ「とりつき」の環境やかたちは多少違うが、両地域とも「とりつき」が存在しており、それによって高齢者は地域社会の一人として生活している。

最後に、今後、激変する地域社会で高齢者が自立して生活するためには高齢者を支える「とりつき」環境を整備する必要がある。そこには高齢者世帯を取巻く人的、物的環境の整備のほかには地域の関連団体や地域政策の変化などの総合的な対策が求められる。また、何より地域住民の共同体意識と高齢者自ら地域社会に関心を持って積極的な運営及び社会参加が要求されるのであると締めくくった。

以上のように本論文では、高齢者の地域における生活行動の実証的分析によって、「とりつき」という行為を中心に高齢者が地域にどのように支えられているかを抽出し、地域の役割を具体的に示すことに成功した。計画的に作られたニュータウンに対し、台東区谷中における地域の潜在力の豊かさから学ぶことは多く、その在り方が示唆される。

本論文は、近年の高齢化社会到来による要請に対応し、地域の役割を明示し、建築計画学の発展に大いなる寄与を行うものである。

よって本論文は博士(工学)の学位論文として合格と認められる。